グループ協議は、KPT法で行います。（次頁を参照）

次の協議題等について協議します。

協議題等

指導のステップが適切であったか。

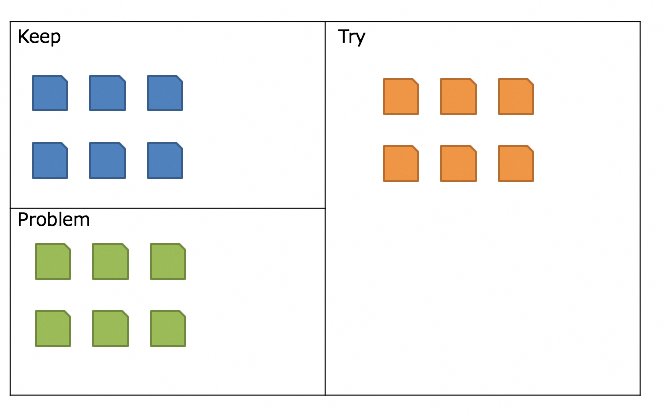
必然性のある言語活動になっていたか。

協議題等を踏まえ、動画を視聴しながら記入してください。

|  |  |
| --- | --- |
| Keep（良かった点、継続すべき点） | Problem（課題点） |
|  |  |
| Try（次に挑戦すること、改善案） | |
|  | |
| ●Tryは、協議会の中で話し合いながら記入します。 | |

グループ協議の進め方（KPT法についての説明）

KPT法とは？

　KPT法とは、Keep、Problem、Tryの頭文字をとったものです。

**Keep：良かった点、継続すべき点**

**Problem：課題点**

**Try：次に挑戦すること、改善案**

　それぞれ良かったので次もやりたいこと（Keep）、課題であるので改善すべきこと（Problem）、次に挑戦したいこと、改善案（Try）の３つの軸で整理する方法です。

　※本来は、付箋を使用しますが、今回は各自でメモ書きします。

ステップ①：Keepを共有する。

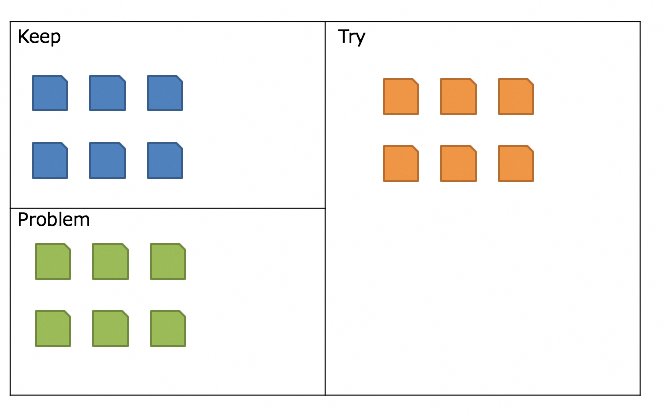
　まず、Keepを書きます。

　個人でKeepであること、授業や協議題における取組で良かった点や、今後も継続すべき点を書き出します。書き終わったら、自分の書いたものを発表します。

ステップ②：Problemを共有する。

　ProblemもKeepと同じように、書いてから共有します。協議の中でTryが出てきた場合は、そこからTryに話を飛ぶのではなく、Problemの話を続けます。出てきたTryはメモし、次で共有するようにします。

ステップ③：Tryを共有する。

****Problemが終わったら、次はTryを書き出します。これまでの協議で出されたKeep、Problemを材料に、そこから思いつくことでアイデアを出していきます。

**Keep→→→Tryは改善点**

**（よりよくする、さらに発展させる方法）**

**Problem→→→Tryは解決策**

**（改善するための方法、代案など）**

と考えます。全員で協議し共有します。